

教育目標		心豊かに、健やかに生きる子供の育成						
重点目標		業務改善に取り組み、教職員が心身共に健康を保ちながら、子供主体の保育を推進する。 (1)保育の質の向上を図る(2)拠点園(Dブロック)としての教育の推進(3)地域や保護者に開かれた教育の推進(4)子育て支援教育の実践						
項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	自分で考え決定して行動する子供の育成	・研究テーマ「主体性を尊重し、支える保育の創造」を研究の視点とし、自ら考え決定して行動する子供の育成に努める。	・保育計画は、短期指導計画を基に協議を行い、全職員で子供の姿について語り合ったり、個々の課題や関わりについて共通理解を図ったりする。教師の援助を含む、環境の構成の工夫について協議をし、主体性を尊重した保育に活かしていくようにする。 ・共同研究園のテーマに沿ったエピソード記録を全職員で協議し、研究テーマに迫る保育実践について積極的に取り組む。 ・共同研究園での園内研究会や市内公開保育を通して、互いに学び合い、自園の保育にも取り入れる。さらに、職員全体で連携し、チーム保育の実践力の向上につなげるようにする。	・月2回短期指導計画及び、3学年合同での戸外環境図を基に、共通理解を図れるよう、遊びのねらいや環境の構成について協議したり、共に環境の再構成をしたりする機会をもつ。 また、保護者アンケートの研究に関する項目の割合が80%以上になる。 ・エピソード記録を用いた研修を学期に1～2回のペースで行い、自ら考え決定して行動するための環境の構成のポイントを見出す。 ・園内研究会を年3回実施(市内公開保育を含む)、共同研究園の園内研究会に積極的に参加し、自分で考え決定して行動する子供の姿につながる環境の構成について学び合う。	B	・月2回の短期指導計画の話し合いの際にホワイトボードを用い、協議後に環境の再構成をすることで、職員間での共通理解を図ることができた。そのことで、気付いた教師が再構成をし、環境が豊かになり子供たちの興味関心が継続していった。また、3学年が遊びを通して自然と交わっていくことにもつながった。 ・保護者アンケートの、「幼稚園は、子供が自ら遊びに関わり、繰り返ししたり試したり考えたりできるよう環境を整え、保育指導に取り組んでいる。」という項目については全保護者から肯定的な評価を得ることができた。 ・エピソード記録を用いた研修は、市内公開保育においても、南ブロックの取り組みとして研究の経過報告に取り入れることができた。	・環境の再構成については、継続的な取り組みになるよう園務日程に位置づけ、継続的に取り組む。 ・子供が興味関心をもち、繰り返し遊んだり、試行錯誤したりする姿になったのは、様々な経験を積み重ねたことや落ち着いて取り組める環境があったからだと考えてるので、今後も子供たちが心動かされるような環境づくりに努める。 ・自園や共同研究園での園内研究会に積極的に参加し、より多くの職員と保育実践について語り合ったり、学び合ったりする。また、エピソード記録を用いた研修を引き続き行いながら、研究テーマである、自分で考え決定して行動するための環境の構成のポイントを見出し、実践に活かしていく。	・努力されてきたことが、日々の子供たちの様子にあらわれている。 ・公立幼稚園で、実践、研究、研修を重ねてきたことが、他の施設の教育の基本となるよう願う。
	インクルーシブ教育・保育の推進と充実	・組織的、計画的なインクルーシブ教育・保育の充実に努める。	・個別指導計画を基に、一貫した支援が行えるよう全職員で子供の実態や必要な手立てについて共通理解を図り、連携を取り合いながら園全体で支援にあたる。 ・定期的に行っているにじいろチーム会において、子供の姿や支援方法の共有を図ったり、支援のあり方を考え合ったりし、よりよい支援をめざす。 ・子供の実態や課題、親子の関わりに即したにじいろ広場を計画的に実施する。 ・にじいろ広場や保護者研修会等ににじいろ保育に係る取り組みをにじいろだよりを通して全保護者に知らせ、本園のにじいろ保育の取り組みやインクルーシブ教育・保育への理解を図る。	・保護者アンケートのインクルーシブ教育・保育に関する項目において、肯定的な評価が80%以上になる。 ・個別指導計画や短期指導計画の話し合い、にじいろや各クラスにおけるチーム会、保育前後の担任と担当間での打ち合わせ等、様々な場を通して子供の実態や必要な支援について話し、共通理解を図り、職員間で連携を図りながら支援していく。 ・子供の実態や課題に即したにじいろ広場を年間10回以上実施する。	B	・個別指導計画をもとに職員間で共通理解を図って組織的に支援を行うと共に、職員会議やにじいろ、及び学年のチーム会、保育前後の職員間での打ち合わせ等を通して支援方法について話し、全職員で連携を図り合いながら支援にあたることができた。 ・保護者アンケートで90%以上の肯定的な評価を得ることができた。 ・子供の実態や課題に応じた内容でにじいろ広場を年間12回実施した。また、事前にねらいや内容、育まれる力等を対象家庭に紙面で配布し啓発を図ると共に、ホームページを通して広く発信した。	・チームとして一貫した支援を行うためには、職員間での共通理解と連携が重要である。今後も全職員で組織的に支援を行えるよう職員間での情報交換、情報共有、話し合いを引き続き行っていく。 ・今年度のにじいろ広場の反省や参加した保護者の方の意見をもとに、次年度のにじいろ広場の回数や時期、学年の分け方、内容等を見直し、より個々の課題やニーズに即したにじいろ広場になるよう引き続き取り組んでいく。	・個と集団が共に育ち合う日常を今後も進めていくことが大切である。 ・異年齢の自然な関わり、同年代での生活の積み上げ、どちらも大切なので、今後も期待する。

豊かな心・健やかな身体	人権教育の推進・充実	・子供、保護者の人権意識を啓発し、互いに尊重し認め合える環境づくりに努める。	・自己がかけがえない存在であると共に、友達や家族も大切であることを実感できるように、啓発する内容や方法を園内で考え推進する。 ・絵本や紙芝居等の教材を使った活動や保健の話を通して、子供が人権について感じたり、考えたりする機会をもつ。 ・年に1回「身近な生活の中で差別や偏見に気づき自分自身を見つめる」というテーマで保護者研修会を行い、保護者と教師が共に学び合える機会をもつ。	・保護者アンケートの人権教育に関する項目において、肯定的な評価が80%以上になる。 ・子供の実態やそれに応じた関わり方、保護者への啓発内容・方法を教師間で話し合って考えていく。 ・人権教育につながる絵本や紙芝居を取り入れた活動や保健の話を計画的に保育に取り入れる。 ・個人懇談・学級懇談を通して子供の姿や成長について話したり、保護者研修会を通して、保護者自身の人権意識について話し合ったりすることで、保護者の人権意識を高めていく。	A	・保護者アンケートでは90%以上が肯定的な意見であった。 ・子供の姿を職員間で共有し、その時々子供に感じてほしいことや伝え方等について話し合うことで、全職員で連携しながら保育をすることができた。 ・人権研修では「生命の安全教育」の動画視聴と話し合いを行った。身近な話題に保護者間でも積極的に思いを伝え合う姿が見られ、アンケートにおいても、日々の子育ての参考になったという意見が多かった。保健の話を通して子供にも同じ内容のことを伝えていたことで、保護者と教師だけでなく、子供も共に学び、共通理解する機会となった。	・引き続き、日々の子供の姿を丁寧に読み取り、全職員で共有しながら、自己や友達を大切に思えるような関わりや環境作りを進めていく。 ・引き続き、保健の話や絵本、表現遊び等、生活全体を通して他者の気持ちに共感したり、考えたりする機会を計画的に保育に取り入れていく。 ・個人懇談や学級懇談、降園時を通して、子供の成長を保護者と共有すると共に、家庭内での関わり方の参考となるように、保育に取り入れている動画や絵本等も発信していくようにする。	・日常生活で、認め合いやそれぞれの良さを共有する機会を引き続き大切にしてほしい。 ・人権感覚や、いのちを大切にする感覚が集団の生活を通して子供、保護者、職員共に高まっていくよう、今後も続けていく。
	体力の向上	・基礎的な体力の向上に努める。	・子供の実態、発達に合わせて必要な動きの経験ができるように生活の中に取り入れていく。 ・子供の興味関心に合わせ、ダンスや体操が楽しめる環境を整える。その際に、異年齢の関わりから遊びが広がることを考慮し、好きな遊びの環境にも取り入れられるようにする。 ・みずほ幼稚園ならではの、坂のある園庭や、雨天時も体を動かして遊ぶことができるホールを活かした保育を計画的に実施する。	・徒歩で通園する、自分で衣服の着脱をする、立って靴を履く、足を交互に出して階段の昇降をする等、生活の中でできることが増える。 ・子供たちが親しんだ音楽や動きをきっかけに、体を動かして遊ぶ楽しさを感じる経験が継続して取り組めるようにする。 ・保護者アンケートにおいて、体力の向上についての項目の回答が80%以上になる。	B	・毎日の生活の中で、教師が意識をもって関わっていくことで、3歳児においても立って靴を履くことや足を交互に出した階段の昇降ができるようになっている。 ・保護者アンケートでは、体力向上についての項目で全保護者から肯定的な評価を得ることができた。また、けんこうカレンダーにも「体を動かして遊ぶ」項目を入れることで保護者への啓発になった。 ・坂、ホールを保育に活用したり、リズムに合わせて体を動かしたりしてきた。しかし、転倒や衝突等のけがにつながる事象もあったため、引き続き体力の向上に取り組む必要がある。	・教師が意識することで、子供への関わり方や声かけが変わり、生活に必要な動きの経験につながるため、全職員で子供の自立につながる関わりを共有できるように努める。 ・保護者にも体を動かして遊ぶ大切さを伝え、家庭と連携しながら取り組めるよう、けんこうカレンダーや学級懇談会等の機会を活用する。 ・生活の中で、体を動かして遊ぶ楽しさを感じる経験ができるよう、音楽に合わせて体を動かす機会を引き続き設定すると共に、室内用の大型遊具を保育で活用する。	・自転車登降園や車でのお出がとも増えている。自分の足で歩きながら、心身共に健康で、体力の向上につながるよう、家庭での生活、保護者の意識が大切と感じる。 ・園ではいろいろな機会を工夫され、年長児の動きに驚いた。
	基本的生活習慣の確立	・基本的生活習慣を身につける。	・子供が自ら清潔習慣を身につけられるように、環境を工夫する。 ・「ほけんの話」や「けんこうカレンダー」を活用し基本的生活習慣の形成を図る。 ・保護者啓発として、月1回以上の「ほけんだより」の配信や、掲示板を使って保健活動の様子を伝える。	・視覚的な表示等ですべての子供が主体的に清潔習慣に取り組めるようにする。 ・月に1回「ほけんの話」をする時間を設けると共に掲示板や「けんこうカレンダー」等で保健活動の様子を伝え、家庭で規則正しい生活習慣に取り組む機会をつくる。 ・保護者アンケートで「基本的生活習慣の習得についての啓発」の回答が80%以上になる。	B	・視覚的な表示を見て、清潔習慣を進めるようになってきた。 ・「ほけんの話」を月1回実施することで、子供が気付き、改善しようとする姿が増えた。 ・保護者アンケートでは90%以上の肯定的な評価を得ることができた。 ・家庭と連携して規則正しい生活習慣を身につけられるよう、さらに工夫する必要がある。	・引き続き、月1回の「ほけんの話」を取り入れる。 ・保健だよりや健康カレンダーの他に日々の連絡ボードを活用し、保健活動の様子を保護者に伝え、家庭においても、規則正しい生活習慣の大切さを知ってもらい、子供と話し合う機会を作る。 ・感染症情報や欠席状況に応じて市のガイドラインに基づき感染予防に努める。	・子供が毎日幼稚園や学校に通えるよう、家庭での生活リズムを徹底していくことが必要ではないか。生活習慣の徹底は自信を持って進めてほしい。

開かれた信頼される園づくり	拠点園としての役割の推進	・Dブロック拠点園として、ブロック内の研修研究、保幼小接続、インクルーシブ教育のさらなる推進を図る。 ・ブロック内の各施設に園内研究会、公開保育、にじいろ広場、にじいろ保育保護者研修会、保幼小接続研修会を案内し、共に学び合える場を設定する。また、年度初め等早めに各施設に日程を周知することで、参加につなげていく。 ・にじいろだより等の便りやホームページを通して、研修研究、保幼小接続、インクルーシブ教育に関する情報を発信し、ブロック内に啓発を図る。	・前年度と比較し、各拠点園事業への参加施設や新たな参加者が増え、拠点園事業がブロック内に広がっていくようになる。 ・にじいろ広場において、広場でのねらいや育まれる力を毎回紙面化して配布することで、より啓発を図る。 ・拠点園事業への関心や理解につなげていくため、実施した拠点園事業の内容や学び等を便りやホームページを通してタイムリーに広く発信していく。	A	・今年度行った拠点園事業(公開保育、園内研究会、にじいろ広場、にじいろ保育保護者研修会、保幼小接続研修会)において、ブロック内の複数の施設からの参加があった。また、にじいろ広場ではブロック内の他施設から継続して参加される方が増え、拠点園の取り組みがブロック内に浸透し、活用されるようになってきた。 ・拠点園事業の毎回の取り組みをホームページや便りを通じて、ブロック内、及び本園保護者にその都度タイムリーに発信し、啓発を図った。	・引き続き、拠点園事業として行う各種研修会を年度当初に計画し、早めにブロック内に周知することで参加につなげ、共に学び合える場にしていく。また、今年度の会の内容を踏まえて次年度の内容を検討し、ブロック内で学びを積み上げていけるようにする。 ・瑞穂小、緑丘小との交流、連携、接続に向けた取り組みを次年度につなげ、今年度の反省を活かした内容になるよう検討する。また、小学校も含めたブロック内の施設の連携、接続を深めていくため、本園が仲介役となりながら引き続き取り組んでいく。	・拠点園として推進されていることを評価する。
	教育活動への理解推進	・家庭や地域に教育の積極的な情報発信に努める。 ・Googleクラスルームを活用し、音声を入れた映像配信を行う。 ・ホームページ、画像を取り入れたクラスだよりやにじいろだより、タイムリーな写真掲示を通して、園の教育内容を知らせていく。 ・子供や生活の写真を通し、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿や遊びを通した学び、研究の取り組みを伝える。 ・地域の会や学校運営協議会、他校種との会等に参加し、就学前教育の大切さ、遊びを通した学びの実際についてアピールしていく。	・映像の配信は音声を入れ、教育的に伝えたい内容を配信する。 ・ホームページは役割分担を行い、個人情報に十分注意しながら更新する。 ・クラスだより、にじいろだより、ホワイトボードの発信は写真と文字を使い目的に応じて効果的に行う。 ・他園と研究、研修に努めている内容や、研究から学んだことを子供の育ちから発信していく。 ・地域の会への参加、地域の行事の発信を行うと共に、就学前教育の様子や実際の子供の学びを地域や他校種へ機会を捉えて伝えていく。	A	・保護者アンケートでは、90%以上が肯定的な意見であった。 ・ホームページでの発信、動画配信は今後も個人情報の保護に努める必要があるため、配信するまでに時間を要する。役割分担と期日を明確にし、計画的に行えるようにする。 ・実施した研究やにじいろ広場について、タイムリーに発信することができた。 ・地域の会への参加、研究・研修会への案内を共に行えた。来年度以降は共に学び合う機会の設定を行っていく。	・発信媒体が複数に及んでいることから、発信に関する業務、個人情報保護にかかる時間がとても多い。業務改善を行いながら、発信の目的、対象、期間、役割分担を明確にし、発信の精選を行う。 ・地域への発信は機会を捉え、引き続き行っていく。	・いろいろ努力されているが、時間や技術も伴うことなので、精選に同意する。
	子育て支援の推進	・園、家庭、地域で連携した子育て支援の推進を行う。 ・園での子供の様子や家庭での子育ての悩み等、保護者と直接話す機会を大切にする。 ・地域の幼児教育センターとして、園庭開放やみんなのひろば事業等を支援していく。 ・保護者同士が交流を深め、縦と横のつながりができるよう主体的なPTA活動を支える。 ・随時、園見学、相談の機会や、瑞穂小学校、緑丘小学校とのつながりを深める。	・登園時、降園時、預かり保育迎え時に子供の具体的な様子や保護者のことを話す機会をもつ ・毎日の園庭開放、降園後そのまま親子で過ごせる園庭開放を実施する。 ・PTAサークル活動では、絵本・園芸等のメンバーが主体的に子供と関わる機会を保障する。 ・特に瑞穂、緑丘の小学校には発信、参加の機会を捉えアプローチしていく。	B	・保護者アンケートでは85%以上の肯定的な意見であった。個人での登降園で直接話す機会はあるが、じっくり担任と話す時間を要することもあるため、希望者のみの個人懇談にはしなかった。 ・PTAサークルが主体的に子供と関わる機会を保障できた。 ・近隣の就学前施設、小学校との関わりが前進した。今後もアプローチを増やし、地域での連携を深めていく。	・保護者が必要とする話が担任とじっくりできるよう、ニーズの把握、時間の確保を行う。 ・引き続き、毎日の園庭開放、降園後の園庭開放を行う。 ・保護者同士の横、縦の関わりができ、子供理解につながる機会をもつ。 ・引き続き、地域で子供を共に育てる。	・最近、すぐにネットで調べ、正しい、答えが出たと思いつくことを危惧する。人との関わりやネットワークを求めない人が増えているように感じる。

安心・安全な園づくり	・様々な事象に対する危機意識をもつ。	・安全点検及び日常のヒヤリハットを共有し、改善を行う。 ・様々な事象を想定した訓練、振り返りを行い、大人子供共に行動力をつける。	・危険や安全な場づくりができたか。 ・計画的に実行し、意識が高められたか。	A	・保護者アンケートの安全への意識を高める取り組みについては100%肯定的な意見であった。今後も計画的に実行し、子供、職員の常なる防災・防犯意識を高めていく。	・引き続き、計画的、また日常的に子供、職員、保護者の防災・防犯意識を高める。	・子供、職員の安全の為、門の施錠は引き続き行うことが妥当である。
学校関係者評価総括 ・園での教師間の連携が図られており、子供の教育が計画的に行われている。 ・園内でのチーム保育や研究等で学んだことを保育に活かしている。引き続き、幼児教育の環境を通した保育を進めていってほしい。 ・他機関との連携や発信など、業務が増えていることで、多忙化しているのではないか。 ・拠点園、公立幼稚園の役割など、伊丹市の就学前教育の推進に取り組んでいることがよくわかるが、市と共に整理や精選をしていく必要があると感じる。							
次年度に向けた重点的な改善 ・自ら考え決定し行動する子供の育成、子供の主体性を尊重し支える保育の創造を引き続き進めると共に、研究3年目の成果を保護者、就学前施設、学校、地域に発信しながらさらに保育に活かす。 ・人権教育、インクルーシブ教育、睡眠・運動を含めた生活習慣の定着について、継続して保護者やブロックの就学前施設と共に学び合う。 ・園務のスリム化を行い、業務改善を図りながらより良い教育を推進をする。							